

## 活況を呈するブラジルの自動車市場

～ 2005 年は「フレックス燃料車」が全自動車販売台数の過半を突破～

2006年 4 月 26日 (水)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: [postbrics@yahoo.co.jp](mailto:postbrics@yahoo.co.jp)

～ 要 旨 ～

ブラジルの自動車市場が活況を呈している。2005年の国内新規自動車販売台数(輸入車を除く)は前年比+4.3%増の163.1万台と、最高水準を記録した97年の実績(164.0万台)には届かなかったものの、過去2番目に高い水準となった。

雇用・所得環境の改善傾向が続いたこと 金融引き締め下にあっても長期金利が低位で安定していたため、自動車ローンが借りやすくなったことなどが販売台数の増加につながった。

さらに、メーカー各社による「フレックス燃料車」投入の効果も見逃せない。「フレックス燃料車」とは、エタノールとガソリンの両エネルギーに対応可能なエンジンを備えた自動車のこと。エタノールはブラジルが有力産地となっているサトウキビを原料とし、価格がガソリンより安く安定しているうえ、環境に対する負荷も少ないという特徴がある。国際的な原油価格の高騰を反映してガソリン価格が上昇するようになってからは、「フレックス燃料車」が若者を中心に飛ぶように売られている。2005年の「フレックス燃料車」の販売台数は87万台と、新車販売全体の53.6%に達した。「フレックス燃料車」が、新車販売に占める比率は、先行きさらに上昇していくだろう。

自動車メーカー各社は、国内販売だけでなく輸出にも力を入れている。ブラジルの自動車輸出台数は主力の軽自動車を中心に急増しており、2005年は前年比+18.2%増の89.7万台となった。仕向け地別にみると、最近ではメキシコ向けやメルコスール(南米南部共同市場)向けがとくに好調だ。新たな販路も開拓されつつあり、中東向けやアフリカ向け輸出が増えている。

国内需要が旺盛であることに加えて輸出も大幅に拡大したことから、2005年の自動車生産台数は前年比+9.1%増の252.8万台と、過去最高水準に達した。

自動車市場の拡大傾向が明確となるなか、メーカー各社は既存工場の稼働率を引き上げて、生産台数を大幅に増やしている。自動車産業の生産設備稼働率は、販売が好調であった97年をピークに低下傾向をたどっていたが、2002年をボトムに徐々に持ち直しており、今後はさらに上昇することが見込まれる。また、メーカー各社は需要増に対応するため、既存工場の拡張や工場の新設など生産能力の増強にも乗り出している。日本を含めた外資メーカーも市場の拡大するブラジルへの進出を本格化しつつある。

購買力のある中産階級の台頭や自動車普及率の低さ(2002年の乗用車普及率は9.3%)などを理由に、ブラジルの自動車市場は中長期的に拡大傾向が続くとみられる。